



「九州」半導体産業展 事務局長 **森嶋 勝利 氏**

次世代エネルギー展も同時開催

インタビュー

「九州」半導体産業展が9月30日～10月1日にマリメッセ福岡で開催される。第3回となる今年は、新たに「半導体設計パビリオン」を設置するほか、自治体も多く新規出展する。また、第1回「九州」次世代エネルギー展を同時開催するなど、半導体関連産業の範囲をさらに広げている。注目点について、事務局長の森嶋勝利氏に話を伺った。

——前回開催について。
森嶋 昨年は、初回に実施したマリメッセ福岡のB館に加え、A館にも会場を拡大したことで会場面積を倍増させた。結果、出展社数は398社、2日間の来場人数は約1万3640人と開催規模は倍近くとなった。非常に多くの方に来場いただき、高い評価をいただけたと感じている。

——来場者の内訳は。
森嶋 地方の展示会では珍しく、会場のある福岡県外からの来場者が非常に多いという点がこの展示会の特徴だ。昨年は福岡県から

の来場者が約4割で、6割の方が県外から来場いただいた。また、全体の約3割は九州以外からの来場で、それだけ九州が市場として注目を集めているのだと実感した。遠方からの来場による交通費や宿泊費といった経済効果にも期待いただいており、実際貢献できていると感じている。

——一方、出展希望にに応えない課題も。
森嶋 昨年は会場規模を拡大したことで出展社数を増大したが、それでもすべての希望にお応えできなかった。今回はパビリオン出展などの増加により出展枠を500社まで拡大したが、それでもすでに完売した。次回はマリメッセ福岡のA館・B館に加えてもう1カ所、近隣の会場も使用する計画だ。

——出展企業の特徴を。
森嶋 この展示会では、前工程、後工程、サプライチェーンを含めた半導体産業全体をカバーする様々な企業に出展いただくことを目指している。その点では初回から幅広い業種の企業に出展いただけており、数が大きくなった点の特徴だ。今年からの新たな試みとしては、半導体設計パビリオンを設置した。半導体の設計企業や設計ツールのベンダー約15社が集まる特設パビリオンを会場2階のスタンド部分に新設する。

——設計パビリオンを新設される経緯は。
森嶋 実行委員長である九州大学の安浦寛人名誉教授の強い思いから設置に至った。製造拠点が九州で増えているなかで、設計会社を日本、特に九州に育てないといけないという思いがある。設計ベンダー各社にお声がけをして出展いただくこととなった。

——設計パビリオンでの取り組みについて。
森嶋 特設セミナー会場も併設する。日本アイ・ピー・エム(株)が開発した半導体設計をカードゲームで学べる教材「The Game」のデモンストレーションや電子工作などものづくり系の動画を投稿しているユーチューバーのイチケン氏に講演いただくことが決まっている。そのほかED Aツールベンダー各社のプレゼンテーションなど設計に関わるプログラムを予定しており、面白いパビリオンになりそうだ。

——そのほか出展企業への動向はありますか。
森嶋 第3回にして初めて九州の全県がパビリオンを出展してくださることになった。さらに、山口県と広島県も出展いただく。ま

た海外からの出展社も少しずつ増えている。これまで韓国・台湾が中心だったが、今年はインドとスイスのパビリオンが加わった。少しずつだが、展示会がグローバル化しつつある。

——都道府県や国の出展が増えるメリットは。
森嶋 1つは自治体による企業誘致の場としての役割、もう1つは地域内の中小企業の技術をアピールできるといふことだ。単独では出展が難しい中小企業も、パビリオンの一員として出展することで予算を抑えて出展できる。来場者側からみると、大企業だけでなく、小規模でも高い技術を持った地場企業と出展する機会となる。海外パビリオンも同様で、共同出展することで技術を日本に紹介でき、日本側もその国の技術や産業を知ることができ

る。双方に大きなメリットがあるだろう。

——次世代エネルギー展も同時開催されます。
森嶋 昨年同時開催した次世代物流展は、大変好評だったこともあり、2027年2月に開催時期を移すこととなった。半導体産業は様々な産業とつながっているが、エネルギーという観点も非常に重要だ。洋上風力や地熱発電は九州地域で盛んであり、福岡県も水素エネルギーに力を入れている。しかし九州にはまだエネルギー分野の展示会がなかったため、半導体産業展の力を借りるかたちで次世代エネルギー展の立ち上げを決断した。

——セミナーについて。
森嶋 昨年同様、①九州の現状を全国に届けること、②日本全国、世界の情報を九州に届けるということという両方の側面でプログラムを構成している。この2つのテーマは初回から継続しており、今後も軸としていく。今年の講演内容は、北海道に拠点を置くRapidus(株)の橋本潔氏に講演いただくほか、ルネサス エレクトロニクス(株)や三菱電機(株)、(株)アムコー・テクノロジージャパンなど九州に拠点をもち、企業からも登壇いただく。自治体や海外からのプログラムに加え、そのほか産総研セミナーも予定しており、充実したプログラムをお話いただく予定だ。

——学生の来場者に向けた施策も実施しています。
森嶋 学生の来場者からは、ビジネスの現場や実機に触れたことへの高い評価をいただいている。今回も引き続き学生に向けた対応として、学生歓迎企業の専用マップの配布や、ラ

ンチチケットなどの特典などを予定している。最終的な目標は、九州の技術力のある中小企業を就職先として紹介することで「学生にもぜひ来てほしい」というメッセージを発信する。企業からもこの取り組みは評価いただけており、学生の来場者に対する期待は非常に高い。

——今回の開催は。
森嶋 次回は27年9月29～30日に実施する。会場を追加することですべての出展希望社にご出展いただくことが第一目標である。次世代エネルギー展の同時開催も継続する予定だ。また、半導体産業展を東京と北海道にも展開し、3都市で開催する。6月2～4日に東京ビッグサイトで「東京」半導体産業展、11月11～12日に北海道札幌市で「北海道」半導体産業展を予定している。

——各会場のすみ分けについては。
森嶋 九州は以前から多くの半導体工場が集積しており、ある程度の市場が形成されていた。一方で北海道は、Rapidusを中心これから半導体産業を作っていく段階だ。北海道庁や札幌市と連携し、Rapidusにも特別協力いただくながら、27年9月に開業する札幌市の新しい展示会場(札幌産業展示場)を活用し、北海道に半導体産業を育てていく。東京については日本全体の中心として九州の出展社や来場者から多くのニーズがあり、それに応えるかたちで開催を決めた。それぞれの会場で用途や役割が導つため、出展社側、来場者側ともに、九州、東京、北海道は十分共存可能だと考えている。

——開催規模の想定は。
森嶋 東京開催は九州開催と同程度になると見込む。北海道は、北海道で40年以上続く「北海道ビジネスEXPO」という展示会と同会期で別展示ホールでの開催となるため、全体としては大きな規模感になるだろう。

——最後に、今回の展示会意気込みを。
森嶋 初回から3年目になるが、確実に認知度が上がっていると感じている。九州の市場そのものが注目を集めていることに伴って展示会も高い評価をいただき、それが規模の拡大につながっているのだと思う。熊本地震もあったが、九州全体として半導体産業を盛り上げるのが間接的には熊本県への支援になる。そういった観点からも、展示会として力を入れていく。(聞き手・日下千穂記者)

